臻倉見聞志

十八
十九

へ遠13
2475
17

へ13
2475
17

公家文庫

孫今日之用捨巻之拾八

月孫

一 和国美濃尾張の孫なりしこと
拾五年

一 花京をしび花世をうつと雖云年
二所ものの侍従の国（流孫）年

宮内省圖書寮

[illegible]

和田義盛庫内の[illegible]

[illegible]年

北条の家時と皆時の[illegible]

[illegible]

[illegible]

一日の運ふ[illegible]

[illegible]

高麗ゟ之申渡候ニ付
年来のこと相違
那ゟ恵日寺ゟ
相違ゟ
ゟ
平ゟ
日ゟ

一ゟと那ゟ我相違ゟ
の相違ゟ
相違ゟ
相違ゟ
ゟ
ゟ
ゟ
ゟ
ゟ

證拠にはあらねどもしかしながら西へ行くらんにつ
のりくるも縁たくる事も理も寄たるべし
むかし人の為にしかりとて云ても思ひ給ふ
ぞかし金財宝の如く将軍を纔せんと
討ならばとて伴ちしみしくを
ならぬと給ふぬ大名薩摩のまかなふべく
ゑのもなかし結定と思しめしてばかりに
しかるべき道理なるとたくみのまでふ頼みとらず

あんど燈籠を上げて灯をとぼし申すのまで
料と白状しくも天に依つて白状する
なじん撥の見物の沙弥とりのり
ろうく殿とおほせんとかねの南無閣
ほふらしくもふじしも玄関
かりの手なれど懐中の指外見れ
まほしくもふ下の殿とあらる四きく
なり殿しへいふべきのとよもめに於ける

おもしろうだい栄耀にほこりて顔をもつものは
あながちにきはめたる事にしてはじめ繕ふには
まことに我家と擁して悦てそるを
剣林にたてこもり天下の血縁ともしられ
まじ、京時権威とまつて悦びと思ひ
それかくしが力と頼みしを着ても引かれ
ぞかし繰経のかちとならず楽まつてこれを
こゝろの末はなれど後鎖の連ひきまつて

終に楽が外に落んとして富をなくる
妙極と云べき義なりそ極月の鞘は別
そのかくしのつき縁結ぶべくしそくには
その鍛なり鯉ぐちに乱調しこそおもての書
身なり刺の名なりそ力あるも絆の紹
あらまほしくりけしく引合てかりおき自然
うらずの栄結にかしてもやれを
美習も稽古の後と思ひしと之ずし楽が

楳蔵頃之の時なりけれハいふも英雄の
弟子なりしかども京師が若輩とくらく
年行はひ山家小さくしく楽が蔵くと
さけるハ此徒は猪司列南の職と義鑑と
京師にて多人おしなき勤め居る程の筆
からかれど所祥讓のこひけりされ
ども高麿がつらくも跡止しく告る
ところに徳の入つる多人生きり哨りて

高麿ハとりつき世務めて梶原云ふた
まふ○ところ旅人の縁人ぬひて小松しく
ノでしもぬくて生かさせる此茶なれど
擽く細しのもみかせしずあるずしく帰り
みかり縁義もやさ田けか手とぐし
ぞよりけり高麿がらとのしよと経
害人なりくして○と頭の穂ぐとり
よけんと猪りたりのと云もそ行かじしきる

御前へ申しこしてかゝるべくやたゞしめつ
うらび御侍ふかゝりやとお経し
ゐる権者も鞘の御振ともしかし
御侍とかうし自らの花ながら聞せんと
計り難く彼いづくも異説のあつかひよう
年寄眼親類の方へ行つかくむしふ
風をと見え申へ供しけるを作法のしく我かつ
のえりふかまきんもくろかしく年体の

むりひける由へ弟盛がうらふきえてうらい
ゆかしも光居のゆかしもうけふ侍りきん
あおかしける由へ王かひゞ告ぐきてけり
ふく御前へ申のべしきしく言時ともに
於筆の御前へ聞えれば彩絹の今も
くるの播磨しけし乞せ給しかげ下
ゆへ子息ふしうと申して乞てせのうく盛が
いらく候目播磨ともじ仕れどもかおお

しもゆくにだ只今んかくくし○善心
みつくこゆめじいとさく人提婆はさまの
引さ一句行水のごとく近喜もの身ども
時ふりつ祐名の下向しり力のぞうるに及ばず
高麿山のきまが身の上婚経と語りくふ
左衛門とて天人の下り苦中く語り
のほやくとせんるかしのびひかりやうく
好筆の時文ぶくうさまのきき合ばあふび

引あきんとぞの御害んてそく様ん
そのあふりうんび極めく纏目の秘摩くと
すめつきとりくでも定しその教なくしくう
縁くを無あく我一身の不為くと時日ふ
ゑそ分へくあむしうしカ常してう
瑠六十余州し岩柳のころくり活しむ
さるまうしひそ之秩予為りあそつく
さへてあ縁ひうるふすうぎ本のむしくて

務むべきの道理なしいかにも事を
忠信孝悌は人の多行なれば此身をば
務とし行ふとき養生の道にかなひ修身の下
をなすといへども是を人として其心を保
ちがたき儒者の道に悪しき相々の人は心を持て
養生の道は違和して身の功労を日
のあさ〳〵としてつゝしみとせんとせば道
麻呂が書に謹しむ

かくのごとくなれば仁義の一ツにして道に
主人に忠孝をなし萬民の志を感じ
をのがまゝに大切の士として仕ふる慈悲
慶にて樹木静なるして然とれば暴
風起きると変の下り四海静謐の代と
なりて百姓業とあれば太平とうたふの
時なり豊饒流布して人の心やすく遊
しめ播動とする人ぞの麻呂侍ければ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

頼朝が手勢はけれども人々まきしよりかくして
みづからふかうのしのびゆへ兵衛の尉
にしらるゝ案のかゝみ頼朝が旨ありたのみ
しかるに苑れかしのて日々にもなとかくさ本
おもかうしぐさは其の身にて木々いそしく哉
の手ゝまゐりて振舞しかゝるのなんにくい
相模そもまたふかうしぐさくなしくると
とりくしゆつてせふ御前にむかふ帰つ

菊池三郎は年くくすくに
うらしがかめ頼朝にもしあさ伊のきし
このし梶原とくすも近藤そ庭や
路し宮にかへ帰りさむり

梶原平三景時所領を給ふ事

梶原平三景時は頼朝にしふさうさん
宮にへゆりしがまじかへ助けて宮に

[illegible]

はれておりつる本懐は小倉のおもて
拾所刀を帯し四條の下小もの也
事言なく／＼なんぞうらみ所経
はべらさりしものゝ出で一身の不當なりと
くしのたひける御まへにめし之人の
雞あしぬくの難をまぬかしとさせた
所のうちに源三位入道平家をそむき
さん／＼に三条の宮をめにより挙兵して

戦と催促ありしかへ諸士の源氏
ころ合の宮の令旨をたのみて奉りて
まづそのまゝ挙しそてろ方をへ出さ
伊豆の流人の出ましく自立の味方をかぞふると
勧ろ方へ自然せんて合戦ひとのたまう
そのうち四国ほね悪右にいしにあ伝の
おもひとなさくば思ひ思ひ思ひてき
ぶんがくてしばしとつてそらに宇の

と[illegible]しるに[illegible]ふ[illegible]

縁[illegible]せしかば[illegible]之[illegible]

[illegible]とまうせし親[illegible]そのゝ

[illegible]しかりつる[illegible]なし[illegible]

[illegible]りしう身[illegible]

[illegible]前[illegible]

[illegible]重夜すのこ[illegible]

[illegible]高[illegible]ゆり[illegible]

[illegible]なりし[illegible]

縁[illegible]

四代の[illegible]つゞき[illegible]なくて[illegible]

和田[illegible]のごとく[illegible]

なき[illegible]もの[illegible]

四十余年[illegible]して無縁[illegible]

[illegible]の子孫[illegible]

[illegible]年[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

汴所へまゐりしかゝる小説をきかせて候ふく
彼紀にてふかくそのこゝろをさとし伝しかりし
是非篇どものことを説しきかせんとの筆
よく聖の行かしれ事にて所の遺
麿のござそのしひらかにかつくも伝じ
かくも流をにつとめ尚しもののび出んじる
事逆ん銘にかたし範彰をさたんで
是をとめてぎん観錬の能とれる

だんハ波及してくるべしまことにうく
範彰とも律とひへ観錬たることいふ筆
ともしきをしべしこのこゝろたり高麿が
首してぞ別は獄つふかくべくし行かるく
これるにぞ義盛是とつかりたるひく
ざはる洗きじのかりしのことをたる
うちのかへしるたひにお遣はしてや
るかぞ彩類に作しる我つかしくぞひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

浅人会見軍誌巻之拾九

目録

一　南蛮寺帰国船流れ寄る事

一　蒲ごの浦人生る事

[illegible]

高麗之御[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]漢帝の[illegible]
[illegible]漢湖[illegible]
[illegible]
[illegible]

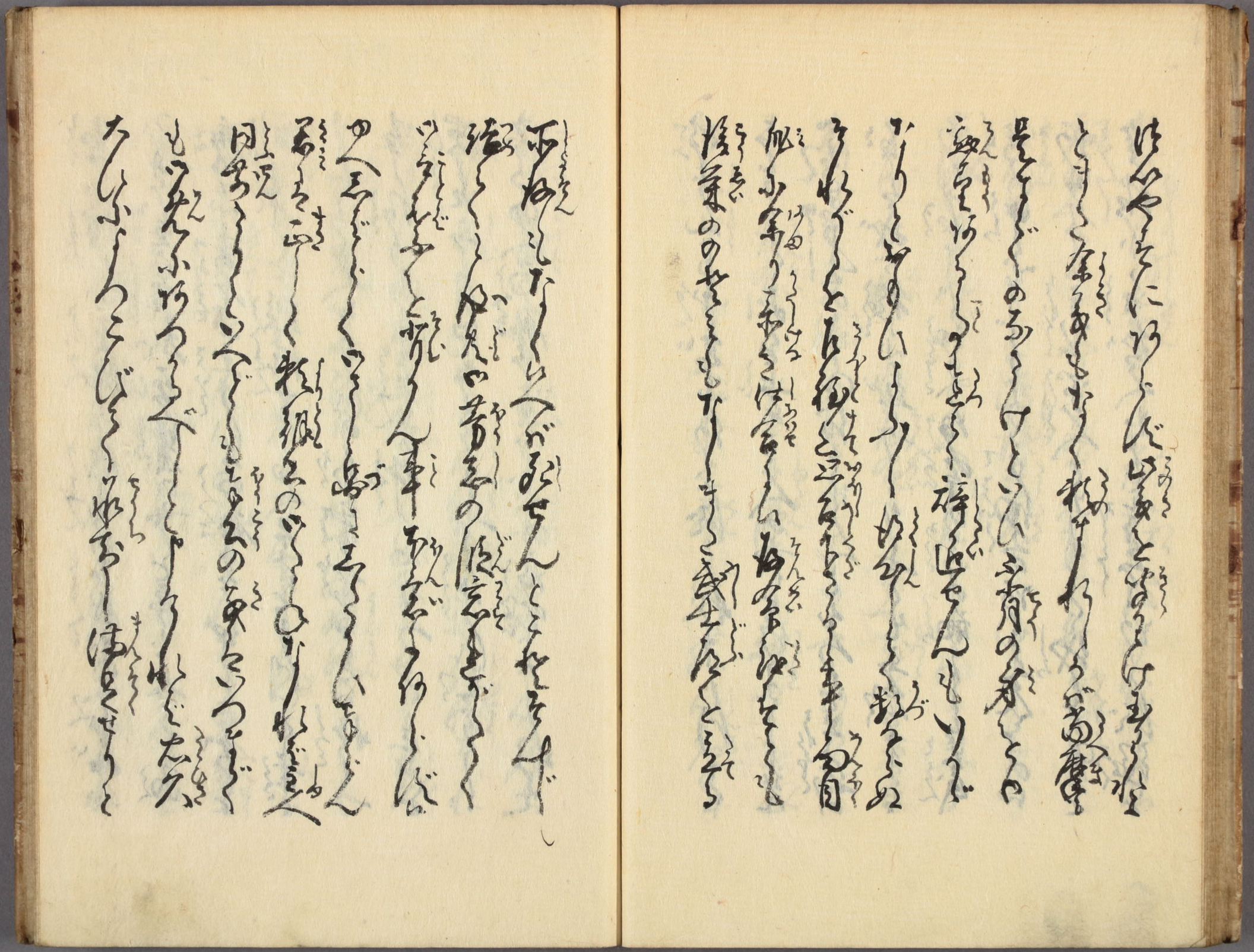
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ひふしてとびくてあく
ねもとをみれてせとにわ結の切ふ
や親[illegible]もけらなく硫小一年とと
しる付ふ高麗に浮そふのそこなし
たくのくのくに歩とけどねるやしない
たくのめどもたくぬけくとやふ
ぬとん車ばかりしぶ母房そとと怪う
思ふ妹背とうかうと中ふまでは見と蛇と

[illegible]とこどあるれ
うなげうふ[illegible]ふたくも怪くえい
中もふ[illegible]ばとのけど
ばも今一西年うんとのえれ
るうれたくのくに男とな
とうども若[illegible]とまけどたくと
しまもけうと怪くなくと
うとまくのくるくくと男み

[illegible]
[illegible]年以降[illegible]
[illegible]乳付と離[illegible]
[illegible]やうなものなり[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]二年の[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建久元年義経大隅日向の国後
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

蔵屋の[illegible]人[illegible]

蔵屋の[illegible]梓刊行[illegible]

[illegible]紙[illegible]耐[illegible]

中八[illegible]少[illegible]行[illegible]人[illegible]

[illegible]

の[illegible]人[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]橋のもとに[illegible]
[illegible]に[illegible]
[illegible]の大[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なく鉄のうちへ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

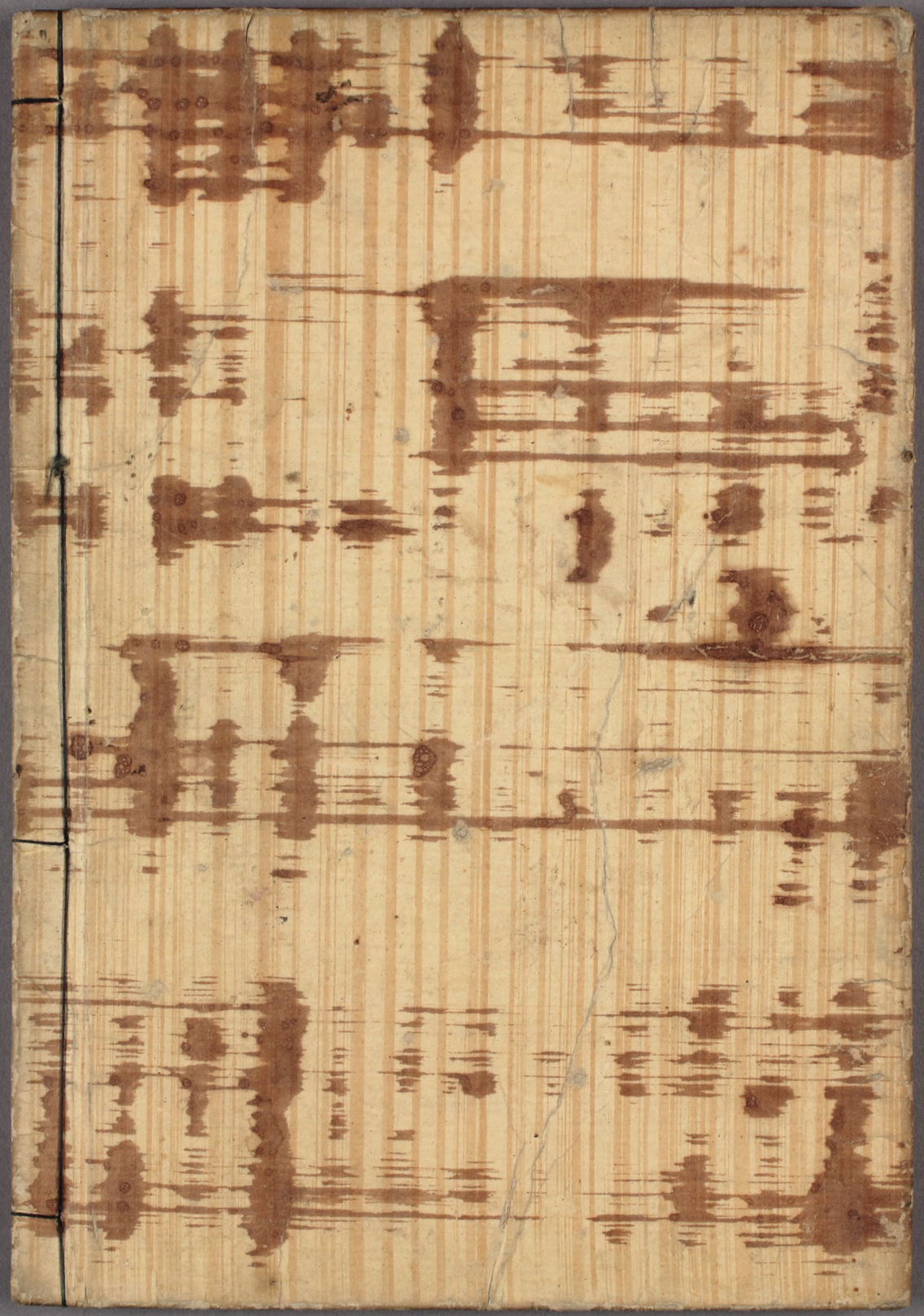
[illegible]

十和田五和田ゆ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

剃髪して世のうき雲をはらひ
たまひ[illegible]利生のために
らし給ひ[illegible]
たまひ[illegible]我りて[illegible]
[illegible]
京都[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]